

令和7年度第2回佐伯市高齢者にやさしい地域づくり協議会 議事要旨

1 日時 令和8年2月12日(木) 18時30分～19時56分

2 場所 佐伯市役所本庁舎 6階 第1委員会室

3 出席者等

【会議の構成員】

会長 島村 康一郎 (佐伯市医師会 会長)

副会長 下川 要二 (佐伯市薬剤師会 会長)

委員 池田 典子 (大分県栄養士会南部支部 会長)

五十川 智仁 (佐伯市医療ソーシャルワーカー協会 代表)

井上 雅公 (佐伯市認知症施策推進部会 会長)

植田 実 (佐伯市総合政策部長)

加藤 壮二 (佐伯市福祉保健部長)

清田 恵子 (大分県歯科衛生士会 県南支部代表)

戸高 親平 (佐伯市介護支援専門員協会 代表)

司農 ゆかり (大分県看護協会 佐伯地区理事)

染矢 芳樹 (佐伯市社会福祉協議会 事務局長)

※代理出席 西村 倫史 (佐伯市社会福祉協議会 在宅福祉課長)

土谷 健治 (南部圏域佐伯地域リハビリテーション広域支援センター事務局長)

林下 陽二 (大分県南部保健所 所長)

※代理出席 庭瀬 朋美 (大分県南部保健所 参事兼地域保健課長)

利光 史規 (佐伯市歯科医師会 副会長)

宮崎 正豊 (佐伯市生活支援体制整備事業推進部会 会長)

吉岡 健児 (佐伯市地域振興部長)

山内 勇人 (佐伯市医療介護連携推進部会 会長)

【欠席】

委員 西嶋 信子 (佐伯市民生委員・児童委員協議会 会長)

【事務局 (高齢者福祉課)】

課長 脇田 康宏 総括主幹 久壽米木 清嗣

副主幹 團塚 真由美 副主幹 神崎 文美

副主幹 山本 愛子 副主幹 片野 志保

主任 釘宮 沙也香 主任 菅 優美

4 議事要旨

1 開会	
	=18時30分 開会=
2 高齢者福祉課長 あいさつ	
協田課長	<p>まず初めに、常日頃から佐伯市の高齢者福祉事業にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。誠にありがとうございます。</p> <p>さて、佐伯市の高齢化率につきまして、令和8年2月時点で42.62%に達しており、65歳以上の人口は最も多かったと思われる。</p> <p>令和3年9月の2万7888人から、令和8年1月末では1048人減の2万6840人と減少傾向となっているような状況である。</p> <p>しかし、総人口の減少に伴い、高齢化率は今後もますます上昇する見込みとなっている。このような状況の中、高齢者が尊厳を保持し、その人らしい生活を継続できるよう、医療、介護、介護予防、住まい及び日常生活の支援が包括的に確保される体制である地域包括ケアシステムのさらなる深化推進が求められている。</p> <p>本年度第2回目の本協議会では、地域包括ケアシステムの体制の核となる4つの事業の年間計画を報告させていただき、議事では佐伯市高齢者福祉計画第10期介護保険事業計画に向けた、取組への施策反映に関するご意見やご助言をいただきたいと思っている。</p> <p>については各事業の報告や議事に対し、委員の皆様の忌憚のないご意見をいただき、急速な高齢化に適応しながら事業を進めるための考え方や具体策を考えて参りたいと思っている。</p> <p>事業実現のため、引き続き皆様方のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。私の開会の挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>(委員の変更について)</p> <p>佐伯市歯科医師会副会長と佐伯市介護支援専門員協会代表の変更に伴い、委員に変更があったことのお知らせと委員紹介。</p>
3 報告	
事務局	<p>=令和7年度地域支援事業の取組について説明=</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 地域ケア会議推進事業 (報告者：神崎)(2) 在宅医療・介護連携推進事業 (報告者：釘宮)(3) 認知症総合支援事業 (報告者：菅)

	<p>(4) 生活支援体制整備事業（報告者：團塚）</p>
島村会長	<p>4つを一気に説明したが、ご質問やご意見のある方はいるか。</p>
井上委員	<p>在宅医療・介護連携推進事業について。看取りに関して、施設と自宅それぞれの割合や傾向について把握しているか。</p>
事務局	<p>全国の統計ではコロナ以降、在宅での看取りは増加している。レセプトで挙がる在宅の看取りは佐伯市でも年々増加傾向である。</p>
井上委員	<p>レセプトや死亡診断書はわかりづらい部分があるので、細かな分析が必要ではないか。</p> <p>もう一点、地域課題について、もっとわかりやすく共有できる方法はないか。共有することで、自分の組織でできることを知らせてくれる可能性もある。地域みんなで解決する意識を持ってほしい。</p> <p>また、認知症について、ワーキングケアラー、働く介護者へのサポートが課題として隠れている気がするが、企業の介護休暇などへの支援を検討してもらいたい。</p>
山内委員	<p>ワーキングケアラーの件は先日の在宅医療・介護推進フォーラムでも取り上げ、相談コーナーも設けた。</p> <p>生活支援体制整備事業の有償ボランティア団体について、今後は行政がやるとか行政から委託を受けた社協がやるだけでは不足する。色々な企業や団体とコラボしてやるというのが国の方向性だと思う。</p> <p>SC（生活支援コーディネーター）さんが中心にあって地域の高齢者が地域を支える仕組みづくりはすごく大事だが、地域の枠を超えて、違う視点での有償ボランティア団体をやっぱり作っていかないと回らないのかなと思う。</p>
島村会長	<p>他職種による研修会の中に ACP（アドバンス・ケア・プランニング）があるが、専門職への研修か。一般市民を対象にした研修という段階までできているか。</p>
事務局	<p>医療介護専門職に対する研修である。在宅医療・介護連携推進フォーラムにおいては幅広く市民向けに普及啓発を行っているが、市民向け研修を行う段階には至っていない。</p>

井上委員	<p>現在、「人生会議を考える大分県民の会」が地区ごとに専門職を対象とした研修やグループワークを行っており、今年度でおおよそ一回りしたところ。来年度は市民向けプログラムなどを作成することを考えているので、待っていただければ活用もできる。市民の方向けには、ACPは終活とはまた違うところもあるので、その違いを御理解いただけるものになりたいと思っている。</p>
島村会長	<p>生活支援は具体的にどのように進んでいるか。</p>
事務局	<p>弥生地域に関しては、社会福祉法人が地域貢献事業として行っている。地域に在住のボランティア4人で移動支援を行い、帰りに買い物をすることもある。住民のニーズと実施団体のマッチングも、社会福祉協議会が全面的にバックアップしている。</p> <p>直川地域では、一つ一つの困りごとをみんなで共有しながら確実に前に進む形をとっている。コミュニティ創生課も伴走支援し、市の公共交通担当とも協議を重ねながら進めている状況。</p>
島村会長	<p>その4人は完全にボランティアなのか。例えばガソリン代等はどうなっているのか。</p>
事務局	<p>弥生地域では、本人の負担と法人の地域貢献事業費で賄っている。直川地域では、1回2,000円程度徴収しており、高くて利用しづらい声もあり調整を行っているところと聞いている。</p>
島村会長	<p>利用件数はどうなっているか。</p>
事務局	<p>直川は登録者が3名、よく利用される方は1名。 弥生は令和6年度に、5名の方がのべ26回利用した実績がある。</p>
4 議事	
事務局	<p>= 議事の内容について説明 = 佐伯市高齢者福祉計画 第10期介護保険事業計画について (説明者：山本)</p>
島村会長	<p>事務局から説明がありましたが、介護保険の策定に関して、高齢者に</p>

戸高委員	<p>やさしい地域づくり協議会の意見を参考にしていきたいとのことだが、意見はあるか？</p> <p>介護人材の確保について。2035年の高齢者の増加についても着目しており、支えるべき高齢者の数は増えていく、ただ担い手となる専門職も一緒に減ってくっていく構造。全国平均でケアマネージャーは40人を担当している。ただ、国としては色々な条件を整えば50人まで担当しているとなっている。国がケアプランデータ連携システムなど様々なデジタル化施策も推進しているので、DXやデジタル化に関することも明記して積極的に進めていくとよい。</p>
事務局	<p>ICT化やデジタル化は介護現場からも切り離せない課題。これらを盛り込みながら、介護人材の確保と働き方改革について計画に盛り込めたらと思う。</p>
山内委員	<p>最後はやはり住む場所の問題になると思う。介護保険制度などはゆくゆくは行き詰まると思うので、民間のインフォーマルなサービスについて、企業などの団体も含めいかに作っていくかが重要だと思う。今は施設に入ればいいが、将来的に施設にも入れなくなったときには、家や施設以外の選択肢を作らないといけない。</p> <p>高齢者のみならず、住まいは福祉の基本となる課題。市全体として取り組まなければならないが、佐伯市では居住支援協議会がない状況。今後住まいに対する取組をお願いしたい。</p>
事務局	<p>住まいの問題は、厚生労働省と国土交通省で所管している。建築住宅課の担当から、随時情報を共有してもらっている。</p>
山内委員	<p>市は縦割りだが、県は一緒にやっている。国は完全に一緒。住まいの問題に取り組まず助け合いやサービスをやっても、人材が豊富だったらいいがそうでもない。住まいを抜きにしては全て語れない。</p>
吉岡委員	<p>地域振興部としても、居住支援で言うと「さいき暮らしな日」という空き家や手続きに関する情報を発信するサイトを運営している。市は連携が取れていないように見えるかもしれないが、部局間で連携を取って進めていきたいと考えている。</p>

加藤委員	<p>福祉保健部としても重層的支援体制整備事業の会議体があり、居住についても取り組む。実際に居住支援協議会は立ち上げられていないが、会議体で居住についても協議していくので、今後の介護保険事業計画も含め考えていきたい。</p>
島村会長	<p>山内委員がやっている「ごちゃまぜハウス」がそのモデルではないか。</p>
山内委員	<p>県知事や市長が視察に来てくれている。佐伯市ならでのシェアハウスを推進するべきだと思う。勉強会なども立ち上げているのでぜひ市も参加してほしい。シェアハウスを住まいの形の一つとして盛り込めたらいいと思う。</p>
加藤委員	<p>シェアハウスも一つの形ではあるが、まずは公営住宅や民間のアパートに対して、居住支援が必要な方たちにどう入居いただくかと協議している。</p>
井上委員	<p>これまでの公営住宅のような考えを変えていかないといけない。「おひとりさま」の問題もある。地域包括ケアのイメージ図の植木鉢では、一番下の土台が住まいである。住まいがなければ、雨露を凌げなければ、医者がいても役には立たない。「地方創生 2.0 基本構想」でも CCRC（継続介護付きリタイアメントコミュニティ）について言及があった。シェアハウスのような地域社会での住まいを中心とした共生について、行政が支援することは大事だと思う。難しいかもしれないが、公営住宅もシェアハウスのような形になるよう取り組んでほしい。</p>
山内委員	<p>公営住宅を改築する際にシェアハウスのような形で推進できたらいい。CCRC2.0も国の補助金があるが、そのような大きな話でなくても、ちょっとしたときに皆がご飯を食べに来たりとか、台風のときに集まって一晩過ごしたりとか、そういう場所でもいい。小規模型のシェアハウスのような形で入れてもらえたらと思う。</p>
事務局	<p>地域ケア推進会議の中で、住まいに関する専門部署の参加が不足しているとは感じている。第10期計画がスタートする令和9年度以降に、住まいについても議論できる地域ケア推進会議に転換させていきたいと考えているので、ぜひご協力をお願いしたい。</p>

島村会長	<p>人口が減る集落で、お互いに助け合って暮らしていくためには家が離れていたらやりにくい。仲の良い同級生が集まって暮らすシェアハウスとか、血は繋がっていないけど三世代が集まって暮らす家とか、そういうコンセプトも良い。生産年齢の世代が全部を支えるという形では成り立たない。住んでいることが援助になるような形で発想して欲しい。</p>
井上委員	<p>血の繋がりよりも、一緒にいて心地よいような関係が支えになる。大分県は通いの場参加率が日本一なので、通いの場を拡充・発展させて、時には一杯飲みながら泊まろうとか、そういう日を設定してもいいのでは。</p>
庭瀬委員	<p>一人ひとりが元気であるため、介護予防事業を充実させていくのも必要だと感じた。井上委員がおっしゃった通いの場の実施回数は、月1回では少ないし週1回でも少ないくらい。行きたいときに毎日行ける場所があるというのが理想だと思うので、そういう場を実現できたらいいと思う。</p>
土谷委員	<p>リハビリ的な視点から、有償ボランティアの活動が素晴らしいと思う。こういう取組が医療機関にも周知されると退院支援に繋がると思われるので、ぜひ医療機関にも知らせてほしい。ボランティアの方々にも、介護予防や自立支援の視点を持っていただきたいので、何らかの研修などを行ってほしい。生活課題がある方が支援を申し込むと思うが、課題をそのままにするのではなく、解決していくような取組ができればいい。</p> <p>生産年齢人口が減少する中で、一次産業についても心配している、例えば、ボランティアの中で畑で野菜を作ったりとか、作り方を教えたりとか、一緒にやってみるような、就業のような形を支援するボランティアの方々がいるとありがたいなと思った。</p>
島村会長	<p>住まいの次は食となる。配食業者なども含め、足りているか。</p>
事務局	<p>市の見守り配食サービスは、比較的充実している。併せて市内の小売業者さんが自宅近くまで配達したり、移動販売もあるが、山間部は配達経路の確保が難しく実施できてないところもあるので、商工担当課とも協議を重ねているところ。</p> <p>土谷委員がおっしゃった畑づくりについては地域課題にも挙がってい</p>

島村会長	<p>る。畑で作ったものをこども食堂に提供する仕組みを作ってほしいとの要望もある。生活支援体制整備事業の中で、SC（生活支援コーディネーター）と形を作っていきたい。</p> <p>また、有償ボランティア団体に対する研修は、次年度以降実施可能だと思う。開催の際にはぜひご協力をお願いしたい。</p> <p>健康づくり協議会でも話したが、野菜作りを行う際は見た目を気にすると手間もかかるし農薬を使うことになる。佐伯は、野菜の見た目が悪くても栄養があればそれを食べるんだという文化になってほしいと要望したので、この会でもぜひお願いしたい。</p>
5 閉会	
事務局	<p>計画の中で話がありましたが、今回は令和8年5月から6月ごろに開催を予定している。</p> <p>詳細についてはまた後日ご連絡差し上げるといことでよろしいか。以上をもちまして、令和7年度第2回高齢者にやさしい地域作り協議会を終了する。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>=19時56分閉会=</p>